

ケリ（チドリ科） 全長36センチ

仁部富之助著「野の鳥の生態」に、ケリの先祖伝来の理想郷として神宮寺と強首が記載されている。昭和10年代のことである。神岡町は現在もケリの繁殖地であるが、毎年のようにその住処を変えながら生き延びてきた。かつてコメの減反政策が長らく続いた時期は、作付けされない田んぼが随所に見られました。ケリにとってこの休耕田が繁殖の理想郷でした。

しかし、近年の農業政策により減反はなくなり、ケリの繁殖地が極端に少なくなってしまった。過去にケリが子育てしていた箇所を訪ねながら何か所も歩き回ったが、なかなか見つかりません。

7月12日、やっと1か所見つけた。もうヒナが巣立っていて農道の脇をちょこちょこ歩き回っていた。見守っていた親鳥が警戒の声を挙げながら、頭上を飛び回った。長居は出来ないと、ヒナを撮影し直ぐにその場を去った。



7月12日、巣立ってまもないヒナが見つかった。

それから約1月後、下川原農道にケリの7羽の群れが現れた。

例年ならこの周辺に数十羽が見られるのだが、今年は過去最少の7羽だけである。幼鳥を連れ立って数家族が終結する田んぼであるが、ケリの繁殖環境は年々厳しくなっているようだ。



8月10日、左の幼鳥は親と一緒に移動してきました。



田んぼの上を華麗に飛ぶ。

青々と育った稲を背景に、華麗に飛び回る光景は見ごたえがあります。しばらくここで体力をつけてから、南のほうへ渡ってきます。



飛んでいる時は白い羽がよく目立ちます。



農道に降りてきた。